音楽刺激によるダンス創作の表現特性に関する研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉川, 京子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/20437

音楽刺激によるダンス創作の表現特性に関する研究

吉 川 京 子

A study of expression traits of creative dance to music as stimuli

Kyoko YOSHIKAWA

はじめに

ダンスは，イメージと運動の連合として，その内的形式と外的形式を融合して表れでる特性を持っている。松本[4]は，ダンス学習の分野を，A.舞踊運動への挑戦 B.舞踊表現への挑戦 C.舞踊作品への挑戦 D.鑑賞力の深化 E.創作過程での人間交渉と変容に類別し，ダンス学習の過程として，動きからイメージへという動きの探求，イメージから動きへという表現の探求，イメージと動きから構造化へという作品の探求，イメージと動きの関わりをみわける鑑賞の探求をあげている。「イメージから運動へ」「運動からイメージへ」，それは，舞踊を探求する両極のベクトルであるとしている。イメージ（内的形式）と運動（外的形式）の融合を求めて，創意の過程は展開される。

イメージを喚起させる刺激としては，動き，言語，音楽，絵画など，身のまわりのあらゆる刺激が考えられる。特に，音楽は，舞踊と同様に，リズム，時間的流れを持つという特質上，ダンス創作の刺激となることが多い。しかし，音楽刺激としてどのような曲を選択すればよいのか明らかにされていないため，ダンス教育において，音楽刺激が効果的に用いられているとは言い難い。従って，ダンス創作のための音楽刺激を選択する尺度を求めることが必要である。

そこで，これまでに，音楽刺激のイメージ調査をSD法により実施し，音楽刺激から踊りにしてみたい曲を選択させる実験を行い，数量化III類の多変量解析法を用いてデータ処理をし，踊りにしてみたい曲のイメージ構造を求め，基準構造を導きだした[14]。また，基準構造は，サンプル群の特徴と曲自体の特徴を弁別する2次元尺度として利用できることが確かめられた[15]。

ダンス作品は，イメージと動きの融合によって完成される。従って，基準構造に位置づけられた音楽刺激を用いて，実際にダンス創作を行うと，どのようなイメージを喚起し，どのような動きを生みだしていくのかを明らかにすることが，ダンス指導の指標を得るのに必要且つ重要である。

I 目 的

本研究では，基準構造を尺度として選択した音楽刺激が，ダンス創作において，イメージ及び動きにどのような表現特性をもたらすのかを明らかにすることを目的とする。

II 方 法

1．音楽刺激の選択

音楽刺激としては，「ダンス創作のための音楽刺激のイメージ構造の研究」[14]で求められた基準構造（図1）に認められた5つのカテゴリーを代表するという意味で，「ダンス創作のための音楽刺激のイメージ構造の研究（II）」[15]で基準

平成3年9月17日受理

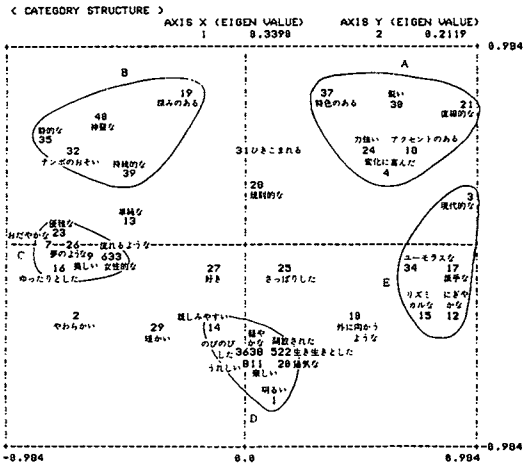

図１　踊りにしてみたい曲のイメージ構造

表１　音楽刺激

カテゴリー	曲　目	演 奏 者	速度	演奏楽器
A	MYSTERIOUS BOY	東海林　修	♩=108	シンセサイザー
B	NOT YET REMEMBERED	BRIAN ENO	♩= 54	ピアノ
C	山水	瀬戸　龍介	♩= 44	笛,パーカッション
D	KILIMANJARO	CUSCO	♩=138	シンセサイザー
E	TIME OUT	MATERIAL	♩=152	ギター、ドラムス

構造上に位置づけられた音楽刺激の布値を基に，５曲選択した（表１）。

２．実験方法

日時：1989年５月

場所：金沢大学小体育館

被験者：金沢大学教育学部体育専攻学生５名（ダンス歴２年），金沢大学創作舞踊部学生５名（ダンス歴１～３年），20～22歳の計10名であった。

各被験者は，レオタードとタイツを着用した。ビニールテープで，各被験者の手首，肘，肩峰，胸，腰，体側，脊柱，胸骨，胸骨柄，大転子，膝，足首にマーキングを行った。

音楽刺激を被験者に２分間聞かせ，その後１分間の時間を与えた。この計３分間で，音楽刺激から浮かんだイメージをできるだけたくさん自由記述させた。次に，浮かんだイメージから，ダンス作品を５分間で創作させた。この間は，動いても，曲をかけてもよいとした。５分経過後，テーマを記入させ，縦６ｍ横９ｍの空間内（空間は，分析用に，縦２ｍ横３ｍ毎にラインテープがひかれ，９つに区切られている）で，作品を発表させ，これを，ビデオカメラ（National AG-300）で撮影した。ビデオカメラの位置は，表現空間の中心から18mの距離で，高さは１ｍとした。

一人の被験者に，異なった音楽刺激で，この手順を５回繰り返した。被験者に与える音楽刺激の順序はランダムとした。

３．分析方法

１）イメージ語の分類

イメージ語の分類には，松本らの「課題学習とダンス・イメージ―舞踊連想用語の収集・分析―」[5]での分類方法を用いた。分類項目は，Ⅰ．自然現象（1.動物　2.植物　3.自然現象）Ⅱ．生活事象（4.物質　5.遊び・スポーツ　6.人と生活）Ⅲ．思想・感情・抽象（7.夢・物語　8.感情　9.感覚　10.抽象）であった。

更に，〈8.感情〉の項目のイメージ語に関しては，感情表現辞典[9]により，「喜・怒・哀・怖・恥・好・厭・昂・安・驚」の10種の項目に分類した。

２）動きの分類

動きの分類は，運動様式の分類と運動を構成する要因である，時間性，空間性，力性の観点により行った。

表２　動きの分類項目

姿勢（床との接点）							動き（頭）			動き（上肢）					動き（体幹）					動き（下肢）										
頭	足裏	手足	臀部	背中	体側	腹部	曲げる	回す	振る	伸ばす	曲げる	捻る	回す	振る	伸ばす	曲げる	捻る	回す	揺れる	歩く	走る	跳ぶ	回る	転がる	退う	倒れる	ステップ	伸ばす	曲げる	捻る	回す

(a)運動様式

運動様式の分類に関しては，渡辺らの「舞踊表現における身体運動の分析・分類方法に関する一考察」[18]を参考に，以下のように分類表を作成した。どの身体部位が床と接しているかによって姿勢を分類し，更に，身体を頭，上肢，体幹，下肢に分け，各身体部位の動きを分類した（表2）。

収録した作品をVTRで再生し，分類表に基づいて分析した。表現性をもちうる最小単位であるフレーズを区切りとし，同一のフレーズが繰り返される限り，一つのパターンとみなし，分析は，パターン毎に行った。また，上肢と下肢については，左右で動きが異なる場合には，分類項目の2項目同時にチェックした。同様に，床と接する身体部位が複数の場合も，複数項目にチェックした。これらについては，結果を処理する段階で，複合項目として分類表に加えた。

(b)時間性

各作品の所要時間を計測し，各作品のパターン数を数えることによって，所要時間とパターン数から単位時間（10秒間）当りのパターン数を算出した。

(c)空間性

斎藤の「伴奏音楽と舞踊表現との関連についての研究」[10]での方法を用い，9つに区切られた空間の利用頻度を求めた。

(d)力性

VTRに収録された50作品を，20名の女子大学生（金沢大学教育学部体育科3年生，ダンス歴1年）に見せ，各作品毎に評定させた。評定には，柴の「舞踊運動とその表現に関する研究（そのII）—Energyを中心に—」[13]で，客観的に動きの力性を把握できると認められた4対の評定語（直線的な—曲線的な，速い—遅い，アクセント有り—流れるような，急変的な—持続的な）を用い，5段階評定法を採用した。「直線的・速い・アクセント有り・急変的な」は，力性が強く，「曲線的な・遅い・流れるような・持続的な」は，力性が弱い評定語として使用されている。力性が強い方を1弱い方を5として計算し，刺激曲毎に各項目の平均値と標準偏差を求めた。

III　結果と考察

1　イメージ語の分類

表3－1～5は，音楽刺激から得られたイメージ語を刺激曲別に分類したものである。

イメージが多く出現した項目が，音楽刺激によって異なっていることがわかる。

イメージが多く見られた項目としては，「特色のある」「鋭い」「直線的な」「力強い」「アクセントのある」「変化に富んだ」というカテゴリーの刺激曲Aからは〈人と生活〉，「深みのある」「神聖な」「静的な」「テンポの遅い」「持続的な」というカテゴリーの刺激曲Bからは〈抽象〉〈感覚〉〈感情〉，「優雅な」「穏やかな」「夢のような」「流れるような」「美しい」「女性的な」「ゆったりとした」というカテゴリーの刺激曲Cからは〈自然現象〉，「明るい」「楽しい」「うれしい」「陽気な」「生き生きとした」「解放された」「軽やかな」「伸び伸びした」「親しみやすい」というカテゴリーの刺激曲Dからは〈遊び・スポーツ〉〈人と生活〉，「現代的な」「派手な」「にぎやかな」「リズミカルな」「ユーモラスな」というカテゴリーの曲Eからは，〈遊び・スポーツ〉〈人と生活〉があげられる。

表4は，〈感情〉の項目に分類されたイメージを10種類の感情語に分類したものである。

刺激曲Aでは「怖・驚」，刺激曲Bでは「喜・哀・厭・昂」，刺激曲Cでは「哀・安」，刺激曲Dでは「喜・哀・昂」，刺激曲Eでは「喜・好」の項目にイメージが見られ，刺激曲によって異なっていることがわかる。刺激曲Bについては，「希望」と「悲哀」，「あきらめ」と「強い意思」，刺激曲Dについては，「希望」と「挫折」という相反する感情語が得られた。また，刺激曲Bは，4項目に渡って感情語が見られ，様々な感情を

表３－１　曲Ａから得られたイメージの分類

	I　自然現象	II　生活事象			III　思想・感情・抽象			
	3　自然現象	4　物質	5　遊び・スポーツ	6　人と生活	7　夢・物語	8　感情	9　感覚	10　抽象
イメージ				ギャング(2) 追跡(2) 犯罪(2) あやしい影 たくらみ 真夜中 夜間の徘徊 暗闇の中に人が逃げ込んできてうろうろしている 捕まりそうで捕まらない 追う人、追われる人 先はだいじょうぶだった、逃げれる 犯人が逃走している暗闇 ある事件の発生 黒い服の男 洞窟を探検している 泥棒 しのび足、ドロボー 戦う	悪魔	奇怪な 恐怖 なにかはっとする 妙な不安感が付きまとう	闇(3) 暗 暗闇 暗闇の中で薄らとした明りがほんのりと漂っている 不気味 今にも何か起こりそうな予感 災難の前兆 悪いことが起きそう 周囲の環境を受けつけないという底のところでの反抗	危険 危険が迫っている 疑惑 未知の世界 未知のものへ 水面下の戦い 次から次へと難関が待っている

表３－２　曲Ｂから得られたイメージの分類

イメージ	潮 霧がかった風景	白いカーテン	海をもぐる	眠い真夜中 失恋 試合に負けた 幼い さまよい歩く 静かな午後 おやすみなさい	枕元にでてくる神様	悲しみのどん底にいる私 誰かに言いたいような、でも自分で思っていた方がいいような 一人ぼっちでしょげている つらいことがあった 挫折 悲哀 とまどい 強い意志 苦労して必死になっている所へほんの少しの希望が見え隠れしている	重苦しい 疲れ 暗い 動けない ずしっと重い 情緒がある 闇 ゆったりした とても暗い、でも落ち込んでいる時とは違う 静 幻夢的 冷たい	思い出 幻想 静けさ 昔を回想している ひと昔前を思い出す 幽玄 美 単調 流れゆく時 私って一体、何？ ちっぽけな私 終わり 静寂

表３－３　曲Ｃから得られたイメージの分類

イメージ	夏(3) 初夏(2) 水 森 こもれ陽 流れ せせらぎ さわやかな風のせせらぎ 夏の晩、静かな田舎でのこと 朝靄の中に佇んでいる 海の中 山の静けさ 山の上の憧景 山奥の村 自然 森の奥の方の川べりにいる 春の雪解けの頃		冒険	早朝 巡礼 別れ 再開 目覚め 真夜中 日本（和） 日本の音 一人のお坊さんがかごを被って田圃の中を歩いている	怪談 幽玄の世界	悲哀 落ち着き 心が落ち着く 孤独なので少し狂いそうな気もする	なんとなく気味が悪い 柔らかい 清涼 涼しい	静寂 独り 不思議 神聖 美 風流 遠いところ 平凡 心を静めて無の世界へ 清らかな心をつくっている

表３－４　曲Ｄから得られたイメージの分類

イメージ	風に向かって	フラッシュ！ 弾力がとてもあるゴムまりが力いっぱい弾む 汗	走る(3) 運動する集団 競技 エアロビクス 回転木馬 遊園地のコーヒーカップ さあ、みんないっしょに楽しもう！ さあ、遊ぼうと誘い出したくなる 輪になって踊る ラインダンス DANCE!DANCE!DANCE! 青春時のスポーツ	青春 戦い 前に進もうとしている必死に 車が走り抜けていく 旅 いっしょにやろう！私といっしょに！ 家の中から出ておいで！ 人がいっぱいいて密になっている状態 キャリアウーマンの女性 都会の中の人々 健康的	スチュワーデス物語	希望にみちあふれているうれしいな！ 情熱 挫折のあとに立ち直ってがんばるぞ！ 熱狂 目まぐるしく忙しいが本人はどことなく楽しそう	大きい 明るい 目まぐるしい 元気ある 元気	若い！ 若い力, POWER 躍動 躍動感 躍動的 力強い 動

表３－５　曲Ｅから得られたイメージの分類

イメージ		ネオンがきらきら輝いている 飛行機が飛び立つ	ヘビメタのコンサート ドライブ ツーリング 遊園地で遊んでいる いろんな楽しい乗物に乗ったり、遊んだり さあ遊ぼうってな具合に遊んでいる様子 ロックにのっている PLAYING エアロビクス ばかになって騒いでいる ディスコ 夜通しのダンス ゲームセンター気分	抵抗 オレタチ、仲間 ヤンキー 夜の街 都会 車で道路を走っている コミュニケーション 宇宙通信 追いかけている いきいきと活動している 明るい戦争 日常の様々 都会のざわめき	ロボットのカラオケパーティ	やりたい放題、好きな事に夢中 楽しむ 楽しい	元気な エキサイトしている 発散している 動 激しさ	わいわい、がやがや 未来 若さ POWER 無秩序な 一生懸命

分類項目の１.動物　２.植物についてはイメージに現れなかったので省略した。

表4　感情語の分類

刺激曲	感情語									
	喜	怒	哀	怖	恥	好	厭	昂	安	驚
A				・恐怖 ・孤独なので少し狂いそうな気もする						・なにかはっとする
B	・苦労して必死になっているところへほんの少しの希望が見え隠れしている		・悲しみ ・悲しみのどん底にいる私 ・悲哀 ・一人ぼっちでしょげている ・つらいことがあった				・あきらめ ・とまどい ・だれかに言いたいようなでも自分で思っていた方がいいような	・強い意志		
C			・悲哀						・落ち着き ・心が落ち着く	
D	・うれしいな！ ・希望にみちあふれている ・目まぐるしく忙しいが本人はどことなく楽しそう		・挫折					・情熱みたいなもの ・挫折のあと立ちなおってがんばるぞ！ ・熱狂		
E	・楽しむ ・楽しい					・やりたい放題好きなことに夢中				

誘発していることがわかる。「怒」「恥」の項目のイメージは，どの刺激曲からも出現しなかったが，本実験の刺激曲からは，10種類の感情語の内8種類の感情語を認めることができた。

表5は，各被験者の創作作品のテーマを刺激曲毎にまとめたものである。

刺激曲A・刺激曲C・刺激曲Dでは〈人と生活〉，刺激曲Bでは，〈抽象〉，刺激曲Eでは，〈遊び・スポーツ〉に関するテーマが多く見られる。

表5　作品のテーマ

被験者	曲 A	曲 B	曲 C	曲 D	曲 E
N・A	シーッ！しずかに	夜に縛られて	ここはドコ？私はダレ？	明日を越える	夜の街へくりだそう
E・O	逃亡者	どうせ……	不気味なとき一すすきがゆれる一	LET'S	遊ぼう
S・K	疑惑	潮の中、光を求めて	別れの朝	YOUNG POWER	DANCING
K・S	理由なき反抗	なつかしさを求めて	幽玄	汗と情熱	都会の雑踏
Y・H	脱獄者	終わり	望郷	はじけている小さい豆	ロボットのダンス
F・I	夜間徘徊	五里霧中	山奥の村の早朝	回転木馬	ツーリング
N・I	追跡	光を我に	静	働く人に	走れ
Y・K	心の葛藤	不安	働く人	出会い	何も考えずに踊っている人
Y・S	近づく危険	海の背	真夜中の鈴	祭りで輪になって踊ろう	全身
T・N	未知のものへ	ちっぽけな私	日本の背	FEELING DANCE	宇宙通信

2．動きの分類

1）運動様式

各被験者の動きを作品毎に分類し，刺激曲別にまとめたものが表6である。

多く出現している動きが，刺激曲によって異なっており，刺激曲による動きの特徴を見ることができる。

床との接点は，刺激曲Dと刺激曲Eでは，ほとんどが足裏，つまり立位姿勢であるのに対し，刺激曲Bと刺激曲Cでは，手足や臀部も見られ，立位以外の姿勢も多く出現している。

頭の動きは，刺激曲Dと刺激曲Eでは，静止が多いが，刺激曲Aでは曲げる動き，刺激曲Cでは回す動きも多く見られる。

上肢の動きは，刺激曲Dと刺激曲Eでは，振る動き，刺激曲C・刺激曲B・刺激曲Aでは，伸ばす動きが多く，その他に，刺激曲Aでは曲げる，刺激曲Bでは回す動きも多く見られる。

体幹の動きは，どの刺激曲も伸ばす動きが多いが，その他に，刺激曲Aでは曲げる・捻る動

表6　動きの分類（頻度）

曲	姿勢（床との接点）										動き（頭）				動き（上肢）							動き（体幹）					動き（下肢）													
	足裏	手足	足裏・手足	手足・臀部	手足・体側	手足・腹部	頭・手足	頭・背中	臀部・背中	頭腹・部手足	頭臀・部手・足背中	曲げる	回す	振る	静止	伸ばす	曲げる	捻る	回す	振る	伸・曲げる	伸・回す	伸・振る	伸ばす	曲げる	捻る	回す	揺れる	歩く	走る	跳ぶ	回る	転がる	退う	倒れる	ステップ	伸ばす	曲げる	捻る	回す	伸・曲	伸・跳ぶ	静止
A	172	10	13	3	0	0	0	0	2	0	2	81	25	16	80	90	48	5	20	32	5	1	1	90	60	33	6	13	32	34	7	25	6	7	4	24	27	25	2	1	7	0	1
B	92	22	10	25	2	1	1	0	2	3	4	52	19	15	75	76	20	0	37	25	2	1	0	91	26	14	9	21	34	2	3	9	2	1	3	7	45	62	1	4	11	0	7
C	128	22	9	12	0	0	2	0	3	0	1	64	34	11	68	95	35	0	33	11	3	0	0	106	36	15	4	16	30	15	3	20	1	6	2	8	42	23	4	2	7	0	14
D	202	2	6	1	0	1	0	3	1	0	1	48	9	18	142	67	40	4	27	67	7	1	4	143	34	20	5	15	17	42	32	19	4	1	3	29	35	18	1	2	3	3	8
E	196	0	2	1	0	0	0	0	1	0	1	48	7	22	124	67	28	2	24	73	6	1	0	136	28	11	0	26	23	34	40	9	1	0	0	30	32	16	1	0	7	2	16

きが他の刺激曲より多く見られる。

下肢の動きは，刺激曲Ａでは，走る・歩く・伸ばす・曲げる・まわる・ステップの動き，刺激曲Ｂでは，曲げる・伸ばす・歩く動き，刺激曲Ｃでは，伸ばす・歩く・曲げる・まわる動き，刺激曲Ｄでは，走る・伸ばす・跳ぶ・ステップの動き，刺激曲Ｅでは，跳ぶ・走る・ステップ・伸ばす動きが多く見られる。

２）時間性

表７は，動きの分類で得られたパターン数と表現時間から，各作品の単位時間（10秒間）当りのパターン数を求め，刺激曲毎にまとめたものである。

刺激曲Ｂが最も少なく，刺激曲Ｅが最も多い。従って，刺激曲Ｂは，ゆっくりと動き，刺激曲Ｅはすばやく動いていると言える。刺激曲Ｂは，「テンポのおそい」「持続的な」というカテゴリーを含む曲であり，刺激曲Ｅは，「リズミカルな」というカテゴリーを含む曲であるので，音楽刺激のイメージと動きの時間性に共通性が認められる。

表７　単位時間における動きの数

刺激曲	動きの数	長さ（ｓ）	10秒間の動きの数
A	20.2	92.9	2.17
B	16.1	99.2	1.62
C	20.2	92.9	2.17
D	21.7	98.6	2.20
E	20.1	73.3	2.74
$\bar{X}$	19.66	91.36	2.15

３）空間性

表８は，各空間の利用頻度と割合を刺激曲別に示したものである。

空間の使用頻度の合計は，刺激曲Ｂ・刺激曲Ｃが少ないのに対し，刺激曲Ｄ・刺激曲Ｅ・刺激曲Ａは多い。刺激曲Ｂが最も少なく，刺激曲Ｄは，刺激曲Ｂの2.4倍と最も多い。空間の使用頻度が多いということは，移動する動きが多いということである。従って，刺激曲Ｂは，移動する動きが最も少なく，刺激曲Ｄは，移動する動きが最も多いと言える。

どの刺激曲においても，最も多く利用された空間は，中央で，20～30％であった。その他に，刺激曲Ａでは，中央左右と中央奥，刺激曲Ｂでは，左斜め奥と中央奥，刺激曲Ｃでは，中央左右，刺激曲Ｄと刺激曲Ｅでは，中央左右，中央奥，左斜め奥の空間利用が多く，11～19％であった。刺激曲Ａ，刺激曲Ｃ，刺激曲Ｄ，刺激曲Ｅは中央左右の空間を多く利用しているのに対し，刺激曲Ｂは，中央左右の空間の利用は少なく，他の刺激曲とは異なっている。

水谷・三浦[7]は，空間の持つ性格として，中央奥は，厳粛，重々しさ，威厳，権威などを表すのに，斜め奥は，暗い，寂しい，悲しい，苦しい，無気味，幻想的，ロマンチックな表現に適した場所としている。刺激曲Ｂは，「深みのある」「神聖な」「静的な」「テンポのおそい」「持続的な」曲であった。従って，刺激曲Ｂで多く利用された空間は，その空間の持つ性格に，刺激曲Ｂのイメージと共通性を認めることができる。

表８　空間利用の頻度（回数）と割合（刺激曲別）

空間	刺激曲 A	B	C	D	E	合計
空間１（中央手前）	12 (6％)	4 (4％)	11 (9％)	17 (7％)	11 (5％)	55
空間２（中央）	46 (23％)	29 (29％)	30 (26％)	47 (20％)	66 (30％)	218
空間３（中央奥）	25 (12％)	17 (17％)	9 (8％)	32 (13％)	26 (12％)	109
空間４（左斜め前）	13 (6％)	6 (6％)	6 (5％)	13 (5％)	9 (4％)	47
空間５（右斜め前）	14 (7％)	3 (3％)	8 (7％)	15 (6％)	13 (6％)	53
空間６（左斜め奥）	13 (9％)	19 (19％)	10 (8％)	26 (11％)	23 (11％)	91
空間７（右斜め奥）	18 (9％)	9 (9％)	10 (9％)	15 (6％)	13 (6％)	65
空間８（中央左）	32 (16％)	6 (6％)	16 (14％)	35 (15％)	30 (14％)	119
空間９（中央右）	26 (13％)	8 (8％)	18 (15％)	40 (17％)	29 (13％)	121
合計	204	101	118	240	220	883

４）力性

表９は，各刺激曲10作品，計50作品の動きの力性に関して20名が評定した結果である。刺激曲毎に各項目の平均値と標準偏差を示した。合計が低いほど力性が強いことを意味する。

刺激曲Ｄと刺激曲Ｅは，力性が強く，刺激曲Ｂと刺激曲Ｃは，力性が弱く，刺激曲Ａの力性は，中程度であると言える。

表9　力性に関する調査結果

	項目1 Mean	SD	項目2 Mean	SD	項目3 Mean	SD	項目4 Mean	SD	合計 Mean	SD
刺激曲A	2.97	1.12	3.31	0.96	2.52	1.04	2.91	1.13	11.71	2.99
刺激曲B	3.78	1.19	4.53	0.66	4.05	1.02	4.19	0.86	16.55	2.71
刺激曲C	3.55	1.18	4.36	0.76	3.71	1.08	3.77	1.05	15.36	3.07
刺激曲D	2.50	1.13	1.93	0.85	2.23	1.08	2.65	1.05	9.31	2.88
刺激曲E	2.29	1.09	2.06	1.15	2.44	1.12	2.90	1.13	9.76	3.55

柴[13]は，「ゆっくり，流れるような，持続的な，静かな」舞踊運動は，力性が弱い感じに受けとられ，「スピードのある，急変的な，アクセントのある，激しい」舞踊運動は，力性が強い感じに受けとられると言及している。力性が弱いと評価された刺激曲Bは，「テンポのおそい，静的な，持続的な」というカテゴリーを含み，刺激曲Cは，「流れるような」というカテゴリーを含んでいることより，力性の弱い，刺激曲Bと刺激曲Cにおいては，音楽刺激のカテゴリーと舞踊運動のイメージに共通性を認めることができる。しかし，力性が強いと感じられるとされる「アクセントのある，変化に富んだ」というカテゴリーを含む，刺激曲Aの力性は中程度であり，強い力性に関しては，音楽刺激のカテゴリーと舞踊運動のイメージに共通性を認めることはできなかった。

刺激曲Bは，各項目共に最も高く，刺激曲Dは，各項目共に最も低い。特に，項目2（速い―遅い）は，刺激曲間で最も顕著な差が認められる。この結果は，柴[13]が，力性の強さを決定する第一条件はスピードであると言っていることと一致する。

Ⅳ　まとめ

本研究は，前回の研究で求められた基準構造（踊りにしてみたい曲のイメージ構造）を尺度として選択された音楽刺激が，ダンス創作において，どのような表現特性をもたらすのかを明らかにするために，音楽刺激によるダンス創作の実験を，女子大学生対象に行い，得られたイメージ語の分類及び創作作品を運動様式と時間性，空間性，力性の観点から分析することによって，以下の結果を得た。

1．「特色のある・鋭い・直線的な・力強い・アクセントのある・変化に富んだ」曲からは，〈人と生活〉に関するイメージが多く，〈怖・驚〉の感情のイメージが生じた。運動は，立位で行うことが多く，頭は，曲げる，上肢は，伸ばす・曲げる，体幹は，伸ばす・曲げる・捻る，下肢は，走る・歩く・伸はす・曲げる・回る動きが多く，移動する動きが多い。力性は，中程度であり，曲のカテゴリーと異なった。

2．「深みのある・神聖な・静的な・テンポの遅い・持続的な」曲からは，〈抽象〉〈感覚〉〈感情〉に関するイメージが多く，〈喜・哀・厭・昂〉の感情のイメージが生じた。運動は，立位以外でも行われ，頭は，曲げる，上肢は，伸ばす・回す，体幹は，伸ばす・曲げる・揺れる，下肢は，曲げる・伸ばす・歩く動きが多い。動きが最もゆっくりしており，移動する動きが最も少なく，力性が最も弱い。曲のカテゴリーと動きに多く利用された空間の持つ性格に共通性が認められた。

3．「優雅な・穏やかな・夢のような・流れるような・美しい・女性的な・ゆったりとした」曲からは，〈自然現象〉に関するイメージが多く，〈哀・安〉の感情のイメージが生じた。運動は，立位以外でも行われ，頭は，曲げる・回す，上肢は，伸ばす，体幹は，伸ばす，下肢は，伸ばす・歩く・曲げる・回る動きが多い。移動する動きは，少なく，力性は弱い。

4．「明るい・楽しい・嬉しい・陽気な・生き生きとした・解放された・軽やかな・伸び伸びした・親しみやすい」曲からは，〈遊び・スポーツ〉〈人と生活〉に関するイメージが多く，〈喜・哀・昂〉の感情のイメージが生じた。運動は，立位で行うことが多い。頭は，動かさないことが多く，上肢は，伸ばす・振る，体幹は，伸ばす，下肢は，走る・伸ばす・跳ぶ・ステップの動きが多い。移動する動きが最も多く，力性が最も強い。

5．「現代的な・派手な・にぎやかな・リズミカルな・ユーモラスな」曲からは，〈遊び・スポー

ツ〉〈人と生活〉に関するイメージが多く，〈喜・好〉の感情のイメージが生じた。運動は，立位で行うことが多い。頭は，動かさないことが多く，上肢は，振る・伸ばす，体幹は，伸ばす，下肢は，跳ぶ・走る・伸ばす・ステップの動きが多い。移動する動きが多く，力性が強い。

参考文献

1）深瀬嘉子，二瓶浩明，小関賢：創作舞踊におけるイメージ分析の試み，山形女子短期大学紀要，15，59－87，1983.

2）林真幾子，田川典子，高橋繁美：舞踊創作に関する一考察—想像から創造への過程—，東京女子体育大学紀要，9，85－93，1973.

3）松本千代栄，柴真理子：舞踊運動とその表現性に関する研究—Design と Tempo を中心に—，舞踊学，1，2－3，1978.

4）松本千代栄：ダンス表現学習指導全書，大修館書店，1980.

5）松本千代栄他：課題学習とダンス・イメージ—舞踊連想用語の収集・分析—，日本女子体育連盟紀要'82—1, 1-15, 1982.

6）松本千代栄，中村乙女，栗原知子，藤山恭子：舞踊の構造・機能と要素化III，日本体育学会第35回大会号，771，1983.

7）水谷光，三浦弓枝：身体の動きによる表現，東京光文書院，1969.

8）森下はるみ：舞踊の動作とその表現特性，体育の科学，32，10，800－803，1982.

9）中村明：感情表現辞典，六興出版，1979.

10）斎藤千代子：伴奏音楽と舞踊表現との関連についての研究，静岡大学教育学部研究報告，人文・社会科学篇，33，81－93，1983.

11）柴真理子：舞踊運動とその表現性に関する研究—Design と Time を中心に—，女子聖学院短期大学紀要，10，125－148，1978.

12）柴真理子：舞踊の表現構造に関する一考察，女子聖学院短期大学紀要，13，79－95，1981.

13）柴真理子：舞踊運動とその表現性に関する研究（その2）—Energy を中心に—，神戸大学教育学部研究収録，73，161－179，1984.

14）須郷京子，奥正廣：ダンス創作のための音楽刺激のイメージ構造の研究，金沢大学教育学部紀要（教育科学編），36，255－271，1987.

15）須郷京子，奥正廣：ダンス創作のための音楽刺激のイメージ構造の研究（II），金沢大学教育学部紀要（教育科学編），37，249－260，1988.

16）富川知加，林真幾子：舞踊創作に関する一考察—各被験者に見る運動発想傾向—，東京女子体育大学紀要，13，57－81，1978.

17）富川知加，林真幾子：舞踊創作に関する一考察—各被験者に見る運動発想の傾向（II）—，東京女子体育大学紀要，14，1979.

18）渡辺本江，加藤朋子：舞踊表現における身体運動の分析・分類方法に関する一考察，舞踊学，5，32，1982.

19）鷲尾澪子：舞踊表現における音と動きに関する研究（I），上智大学体育学紀要，13，40－51，1980.

20）鷲尾澪子，大浦美代：舞踊表現における音と動きに関する研究（II），上智大学体育学紀要，14，19－42，1981.